

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス唐津教室		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・柳沢運動プログラムを用いた運動遊び&静かな活動を行っている	・児童の程度に合わせて簡単に体を動かせる運動療育を行っている ・運動遊びのあとは、読み聞かせやカード遊びやビジョントレーニングなどの静かな活動を行い「動」と「静」のメリハリをつけて集中力や運動療育の効果を高めている	・定期的に研修を通じて運動療育のスキルアップを図っている
2	・土曜日や祝日、長期休みなどは様々なイベントを企画し開催している	・季節にあわせて室内では工作や誕生日会、ハロウィンパーティー、クリスマス会、カルタ大会、調理イベント等、屋外ではプール遊びや公園、宇宙科学館等へのお出かけイベントを企画し、一年を通じて様々な社会体験ができるよう工夫している ・室内だけではなく、屋外での活動も取り入れている	・内容や場所を変える等マンネリ化しないよう取り組んでいる ・楽しく参加できるような企画を立て実施していく
3	・特別支援学校の製作物物品販売に出かけたり地元のお祭り見学、工場見学など地域交流の機会がある	・こどもプラスを利用する児童が製作に関わった物品を見たり、児童が製作物を販売している様子や、地元のお祭りを見に行ったりと、社会体験や地域交流に努めている	・今後はさらに視野を広げて様々な地域交流の場に参加していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用児童の年齢層が幅広いため、運動遊びや静かな活動が高学年の児童にとって簡単に感じてしまう時がある	・低学年の児童が多い為低学年のレベルに難易度を合わせてしまいがち	・低学年(小学1年生)から高学年(高校生)まで興味を持って取り組める運動遊びや静かな活動を企画する ・難易度を分けて取り組めるよう工夫する
2	・調子が悪い児童が過ごす静養室はあるが、職員の人数やスペースに限りがある為、利用児童が多い時は全体的に落ち着きがなくなりがちになる	・利用児童が多い ・児童数に対する職員が少ない	・利用児童数と職員数の調整
3	・親子で参加できるイベントの開催ができていない	・コロナ禍で親子イベントが実施できない期間が長かったり、児童のみのイベント企画が中心になっていた	・土曜日や祝日に親子で参加できるような企画を考えて実施する ・保護者同士の交流が持てるようなイベントを企画する